

パラグアイ発案 豆腐100万丁計画

被災地へ海外から

仏から義援金とメッセージ

南米パラグアイの日系農家と食糧輸入会社ギアリンクス(美濃加茂市)が協力し、東日本大震災の被災者に100万丁の豆腐を届ける活動が始まった。14日、豆腐3.500丁を載せた冷蔵トラックが第一陣として出発。宮城県気仙沼市などの避難所で、豆腐汁などにしてふるまわれるという。

このプロジェクトは、震災があった3月11日にパラグアイに出張していた中田智洋社長に、イグアス地区の農協の

美濃加茂の会社協力 まず3500丁



日系人が「母国に何か支援をしたい」と相談したのがきっかけ。イグアス農協が生産す

る大豆100丁で100万丁の豆腐を作り被災者を支援することになった。

必要な約4千万円の費用のうち1千万円はパラグアイの日本人会連合会が募金で集め、残りはギアリンクスが別に作る豆腐の販売収益などを充てるという。

14日は、中田社長が運営す

駐日パラグアイ大使(右から3人目)らも出席し、被災地へ豆腐を贈る救援活動第一陣の出発式があった。中津川市の「ちのこ村」

る中津川市の「ちのこ村」で出発式があり、豊蔵直之・駐日パラグアイ大使やパラグアイの民族楽器アルパ奏者のルシア塩満さんと日下部由美さんらが出席。豊蔵大使は「パラグアイは長年、日本から経済援助を受けてきた。わずかだが、そのお返し。豆腐は日本人の必需品で喜んでもらえると思う」とあいさつした。

日下部さんはチャリティーコンサートで集まった約25万円を救援活動のために寄付した。(紅谷暢章)

高山市で14日に始まった「春の高山祭」に訪れたフランス人の理学療法士ティエリー・フッコーさん(57)は、被災者のために、母国の小中学生ら約60人からのメッセージや義援金3000円を集めた。

「勇気」「連帯」と漢字で



高山祭訪問 フッコーさん集める

書かれた手紙や日本のアニメの登場人物を描いた絵もある。フッコーさんは「日本に大切な友人がいることを子どもたちに話した。私たちの友情を通じて日本の被災者のことを考えてくれたようです」と話した。フッコーさんは7年前から、県内と名古屋や北陸などを走る計250キロのマラソン大会に参加。2年前の大会中に体調を崩し、郡上市の民宿で休養した。その時に親切に看病してもらったという。(高木文子)